

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590700076		
法人名	株式会社 アキタニット		
事業所名	グループホームしゃくやく3号館		
所在地	秋田県湯沢市杉沢字森道下87-20		
自己評価作成日	令和2年8月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	令和3年1月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様が笑顔で毎日の生活を送られるよう、職員も明るく笑顔で支援させて頂いております。ご利用者様一人ひとりに合った生活リズムを大事にし、皆さんが和気あいあいと過ごすひと時を大切にしております。またご家族様や友人、地域の方々が気軽に訪問出来る環境づくりに努めております。

ご利用者様の個々に合った、画一的ではない柔軟な対応を心掛け、皆さんから今後も暮らしていきたいと思って頂けるグループホームであるよう努めて参ります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域との連携、交流を大切にした運営を心がけ、これまでの職員の努力によって地域との関係は深まってきており、地域住民からは折に触れて声をかけていただき、運営推進会議も機能していて会議メンバーから提言を受け、災害時の具体的な取り組みに繋がっています。利用者は高齢になってきており、コロナ禍にあって内外の会議の参加を極力減らしたことで関わる時間が増えて意向の把握に繋がり、その時間を大切にして個別ケアに活かせるよう取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を共有し、それに基づいたケアの提供に努めている。	会議で理念を周知する機会を増やして職員の意識が高められるよう取り組み、日常のケアに反映できるように努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々からは行事等を通じて関心を持っていただいている。	例年であれば地域のクリーンアップに参加したり、ホームの行事に地域住民や子供たちを招待して交流を深め、今年は豪雪で困っている近所の雪寄せに協力する等、地域との関わりを大切にしています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	運営推進会議に出席された地域の代表者の方々を通じて、ホームでの現状や認知症に関する資料を用意してお伝えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に出席された方々からは、必ずひとことご意見やご感想をお伺いして、サービス向上に努めている。	現在は資料送付にとどまっていますが、対面で開催した際には、ホームの取り組みを伝える上で課題についても意見が出され、運営に活かされています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	会議以外にも普段から電話での報告や相談を互いに行っており、協力関係を維持している。	地域ケア会議は書面で行われるようになり、それ以外の必要な研修にもできる限り参加しています。管理者は窓口にも出向き、行政職員と顔の見える関係づくりをしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修を行い、日頃から身体拘束をしないケアを実践している。	社内研修やスピーチロックの意識調査等で職員の認識を深め、身体拘束の内容を理解して取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修への参加で学ぶ機会を持ち、またチェックリストを活用して職員間で確認しながら虐待防止の徹底を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状では該当するご利用者様はいないが、マニュアルを確認しながら制度理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	丁寧な説明を行って不安解消に努め、納得して頂いた上で同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にはご利用者及びご家族にもご出席頂き、意見等を伺って反映させる事に努めている。	電話やホーム通信で利用者の様子を伝え、状況に応じて意見を聞き、苦情等への対応等、話しやすい関係を大切にしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング以外にも日常的に管理者へ意見が言える状況を築いている。各職員から出された意見等は調整会議などを通じて代表者に伝えている。	会議の他、日常的に話しやすい雰囲気をつくり、職員の意見や提案が業務に反映されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	家庭環境や事情を踏まえたシフト調整など、柔軟な対応がされている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スキルに応じた研修への参加機会を設け、個々のスキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームネットワーク会や外部での各種研修会等を通じて、交流を図りながらサービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の思いを知る事で不安解消を図り、職員間で情報を共有しながら、良好な関係が構築できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	分からない事や相談、要望にはすぐに対応する事で安心感を持って頂けるように努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人を尊重し、いま発揮できる能力を見極め出来る事を大切にして、コミュニケーションを取りながら一緒に作業などを行うように努めている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族からご本人とのエピソード等を伺いながら、ご本人にとっての最善のケアを見出し、共に支えていける関係作りに努めている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の了承を得たうえで、ご本人の友人や知人の方々とも面会などができ、また外出時も馴染みの場所へいけるように支援している。	面会に制限を設けていることから電話をかけてくれる家族がいる他、理美容院の利用等、馴染みの関係は継続されています。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が適宜フォローしつつ、気の合うご利用者様同士が互いの居室を行き来したり、一緒に作業を行うなど良好な関係性が保たれるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も電話等で連絡を取っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思いや言動を記録する事で、可能な限り意向に沿った支援に繋がるように努めている。ケアプランの見直し時にはアセスメントを行い、ご本人のニーズをプランに反映している。	日常の関わりを大切にし、利用者の思いが汲み取れるように努めています。介護計画に活かせるように記録の仕方を見直しながら取り組んでおり、モニタリング、再アセスメントに繋がっています。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	趣味嗜好などを伺いながら、それらを継続できるような対応やケアを行っている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態変化などは、ケース記録等で職員間の情報共有を図り、現状把握に努めている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントやサービス担当者会議にて課題やニーズを探り、現状に即した支援方法を検討しプランを作成している。	担当職員が毎月モニタリングを行い、サービス担当者会議で確認、検討し、介護計画を作成しています。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録へエピソード等を記載し、ケアに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行きつけの美容院やかかりつけ医への通院をしている。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人及びご家族の意向を伺いながら受診する医療機関について検討している。またご家族付き添いでの通院の際には、書面等で情報提供を行っている。	希望に沿って支援しています。協力医をかかりつけとしている利用者も多く、訪問診療や緊急時の連携が図られ、適切な支援に繋がっています。歯科医による訪問診療が可能な他、ホーム内で定期検診も受けています。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に状態を伝え、必要なアドバイスを受けている。状態変化時にはかかりつけの医療機関と連絡を行っている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	訪問や電話にて入院されているご利用者様の状態把握に努めている。また担当看護師や相談員とも連絡を密にして連携し、早期退院できるように支援している。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人・ご家族の意向を確認したうえで主治医とのカンファレンスを行い、当ホームで出来る支援内容をご了承頂き対応している。	状態の変化に伴って医師、家族と話し合い、ホームで看取りが行われています。現在対象となる方がおり、医師、看護師と連携を図りながら支援しています。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年度は実践訓練をまだ実施していないが、管理者から急変及び事故発生時の対応についてミーティング時に口頭で伝えている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方々にもご参加頂いて避難訓練を実施している。訓練後は反省点をまとめ、次の訓練や個々のシミュレーションに活かしている。	水害時には運営推進会議メンバーの協力が得られることになっている他、近隣の協力体制ができており、指定避難場所以外に新たな避難場所の検討も行っています。食料を備蓄し、近隣の避難場所にもなっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	不安や不快感を抱かない言葉遣い、態度、声のトーンなどを意識して接する様に努めている。	個々の性格や状況を把握して対応することに努め、一人で過ごしたい人等、その人の思いに沿ったケアが人格を尊重することに繋がっています。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中から思いや希望などを聞き入れ、可能な限り対応している。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースに合わせた対応に努めている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段着や整容面など、ご本人の意向を伺いながら支援している。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の嗜好を確認しながら、場合によっては代替食の提供も行い、職員も同じテーブルに着いて食事している。また、準備や片付けについてもご利用者様と一緒にしている。	節目毎に提供する食事で季節や慣習を思い出し出してもらえるように取り組んでいます。調理に参加する方もいて全員一緒にテーブルに着き、時間がかかっても自分のペースで食事ができるように支援しています。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医からの指示などをもとに、個々に合わせた支援を行っている。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けや介助にて実施している。また就寝前は定期的に義歯洗浄剤を使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ポータブルトイレ使用者は現在いない。 基本的にトイレでの排泄が来ている。 オムツ用品を使用している方はおられるが、前以て声掛けを行い失敗を防ぐよう努めている。	状態に応じて排泄用品を適宜変更している方、リハビリパンツから布パンツに移行できた方等、チェック表を活用して個々の状況に応じた支援が行われています。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分摂取や牛乳の提供、日常的にテレビ体操やラジオ体操を行って便秘予防に取り組んでいる。 便秘症の方については、主治医へ相談のうえ下剤を処方してもらい服用している。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の気分や健康状態を把握し、間隔が空かないよう、且つご本人の希望に沿えるよう配慮している。	就寝前の希望には対応していませんが、利用者によっては補助具を使用して湯船に浸かる等、ゆっくり入浴できるよう支援しています。週2回の入浴を基本としながら連日の希望にも快く対応しています。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムを把握しながら、可能な限り夜間の安眠に繋がるよう支援している。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳にて確認している。 症状に変化があった際は早めにかかりつけ医へ相談し、指示を仰いでいる。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の好きな事や嗜好を把握し、楽しみのある生活が出来るよう支援している。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度は日常的な外出は行っていない。 好天の際、敷地内限定での屋外の散歩を行っている。	現在は通院や理美容院に出かけることが外出の機会となっており、敷地内を散歩することで気分転換を図っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル回避のため、ご本人が現金を所持する事はしていない。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から電話があった際は、ご本人とお話して頂いている。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を心掛け、室温については各ご利用者様に聞きながら調整している。 季節に応じてひな壇や絵灯ろうなどを設置している。	掃除が行き届き、不快な臭いがしないよう配慮しています。家族にはその対応を高評価されています。浴室には介助しやすい浴槽が設置され、トイレも十分な広さがあります。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりがマイペースで過ごせる環境づくりに努めている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で愛用されていた物を配置して、安心して過ごして頂いている。	馴染みのものを持参し、テレビを観たり、趣味の将棋を続けたり、また、自分でレイアウトを変える方もおり、本人本位の生活環境がつくられています。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	屋内はバリアフリー設計となっている。 ご利用者様に応じて、場所名や居室に氏名を掲示するなど工夫している。		